

UDスポーツ モルックの基本

道具の名称



競技の方法

- ①投擲(投げる)位置(モルッカーリの内側)から、約3.5m先のスキttlをめがけてモルックを投げます。
※コートの大さは大会によって、異なるようです。
 - ②倒れたスキttlの本数または、1本だけ倒れた時はスキttlに書かれた数字が得点になります。
 - ③スキttlは倒れた地点に再び立てます。
- ※①～③を繰り返し、ピッタリ50点を獲得すると勝ちです。

主なルール

- ・50点をオーバーすると25点に戻ります。
- ・スキttlが倒れなければ投擲ミス(0点)ですが、3回連続でミスをするると失格となり相手の勝利です。
- ・モルッカーリの踏み越えは投擲ミス(0点)となります。



入りの広さと奥の深さに魅せられ UDスポーツのモルックに本気

モルックチーム「ローキーズ」代表の高野 伽惟さん

チーム結成から3年
滋賀県のトップ選手へ

市内在住の高野 伽惟さんは、3年前に職場の仲間とレジャー感覚でモルック大会のビギナークラスに参加した際、優勝したベテランチームから「モルックを続けてね」と副賞の道具セットを丸ごと譲ってもらいました。これが「ローキーズ」結成のきっかけになりました。

20〜50歳代の5人のメンバーは、年齢も住んでいる町も勤務地もばらばらですが、県内の大会を中心に、モルックを競技として楽しんでいきます。昨年初めて開催された「2025 モルック Moriyama CUP」にも出場し、27チーム中で優勝

しました。

ローキーズは昨年度の滋賀県民大会でも優勝し、県のトップチームとなりました。

入りの広さも奥の深さも魅力遊びでも競技でも楽しめる

フィンランド生まれのモルックは、誰でも楽しめるUDスポーツです。やることはシンプルですが、実力だけでなく駆け引きや運が勝負を左右します。とても強いベテランチームに勝つこともあれば、レクリエーションとして楽しんでいるビギナーチームに負けることもある。「とっつきやすく誰でもできるので入り口はとても広いです。健康、レクリエーション、競技性、目的や楽しみ方もチームそ

れぞれで、それがモルックの魅力でもあります。でも、競技として本気でやろうと思うと奥の深さを実感します」と高野さん。

マイペースで本気の競技
目標は県民大会連覇

メンバーはおのおの忙しいので、全員が集まって練習できるのは年に数回ほどしかありません。普段はシングルや別チームに参加して練習や試合に臨み、腕を磨いています。ローキーズ

を結成した頃と比べて競技人口や大会も増え、今では老若男女関係なく、いろいろな選手やチームとの交流もモルックの楽しさの一つになりました。
モルックを楽しむ人が増えてほしい一方で、高野さんは競技選手としても熱い目標を持っています。それは、県民大会の連覇と、前回悔しい思いをした「モルックジャパンオープン」の決勝トーナメントに出場し、初戦を勝ち抜くことだそうです。

2025 モルック Moriyama CUP



市スポーツ推進員が主催した大会で、ローキーズは3人で出場し、見事優勝しました。